

# 第5期 事業報告書

自 2019年2月1日  
至 2020年1月31日

特定非営利活動法人アジアパシフィックアライアンス・ジャパン  
佐賀県佐賀市松原 1-3-5 ゼロワン佐賀ビル 6階

## 1. 総括

今期は、令和元年九州北部豪雨（2019年8月）、関東広域が被災した令和元年房総半島台風（台風15号、9月）、長野県をはじめとする東日本地域で記録的な大雨となった令和元年東日本台風（台風19号、10月）、さらに同年12月に中国武漢で報告された新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大など甚大な被害をもたらす災害が相次いだ。

令和元年九州北部豪雨は長崎県から佐賀県、福岡県までの広い範囲にかけて、長時間にわたる線状降水帯による集中豪雨が発生、8月28日を中心として各地点で観測史上1位の記録を更新した。台風15号では関東上陸時の勢力では過去最強クラスの台風で政府は8月の大雨と共に激甚災害に指定した。10月の台風19号では関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした。

特に、令和元年九州北部豪雨はA-PAD ジャパンが佐賀に設立されて以来、県内では初めての大きな災害となったこともあり現場での支援活動に注力した。予め佐賀県担当課と調整をはかり洪水が確認されてすぐに佐賀県ふるさと納税のGCFを立ち上げ、同時に県や市町、および他CSOと連携して情報集を開始した。市内の一部で断水発生との情報を得て、飲料水の配給状況について給水所を中心に聞き取り調査を実施。その後、県内で最も被害の大きかった大町町、武雄市を中心に状況を確認しながら緊急対応を開始した。また大町町の避難所にスタッフが寝泊まりして実施した避難所の状況やニーズ調査、県内の生産者から調達した果物の避難所での提供、移動困難者へのタクシーチケットの支援など特徴的な活動で特に県内のメディアにも多く取り上げられることとなった。

10月の台風19号では協定を結んでいる佐賀大学から医師2名を佐賀空港から専用機（コマンダー695）で派遣し、任務終了後は医師らと共に県庁に訪問して佐賀県山口知事へ報告と記者発表を行った。

2020年1月には新型コロナウイルスの感染拡大防止の目的に、A-PADが佐賀倉庫に備蓄していた防護服やマスクなどの医療従事者向けの物資を中国の武漢市や上海市の医療機関に提供を行った。その後も引き続きパートナー団体と協働して行う「空飛ぶ捜索医療団（ARROWS）」事業として、日本国内の医療機関等への支援を実施している。

## 2. 事業報告

### 2-1-緊急災害支援

#### ●2-1-1 九州北部豪雨（佐賀豪雨）被災者支援事業

2019年8月28日から佐賀市を拠点に支援活動を開始。浸水に加え鉄工所からの油流出被害の大きかった大町町を中心に、肌着、マットレス、ブルーシート、軍手、マスク、飲料や果物などの物資を配布した。マットレスやブルーシート、飲料等の一部は、企業の支援組織である緊急災害対応アライアンス（SEMA）を通じた支援要請



による物資調達を活用して迅速な対応ができた。また、停電となった保育園へのランタン貸出し、避難所となった公民館に扇風機やランタン、ボランティアセンターに車両や高圧洗浄機などの資機材を貸出し、避難者の生活や生活復旧を支援した。

大町町では避難所に避難されている方を中心に車が浸水したなどで移動困難になった方を対象にして、無料のタクシーチケット1枚上限1000円を500枚、その後、在宅避難者にも拡大してチケット1枚上限695円を約300枚の支援を行った。

※事業には一部「佐賀災害支援基金」を活用。



大町町避難所↑



保育園へのランタン支援↑



タクシーチケット↑

#### ●2-1-2 令和元年東日本台風（台風19号）被災者支援事業

・緊急搬送支援：2019年10月関東地方や甲信地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした。A-PAD ジャパンは佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センターの医師2人とスタッフ1人を含む緊急チームを、台風19号の被災地の一つ長野県に専用機で派遣。長野県DMAT、自衛隊らと協力し、千曲川の決壊により浸水した病院やクリニックから入所者や患者ら約270人を移送するミッションを支援した。院内には泥が堆積するなか、医師や看護師らが高齢の入所者や患者らの状況を一人ひとり確認しながら受け入れ先の調整や移送を実施した。





長野県リハビリテーションセンター搬送時↑



佐賀県庁にて報告会↑

・避難所支援：2019年10月13日から、パートナー団体のピースウィンズ・ジャパン(PWJ)、シビックフォース (CF) と共同で緊急支援活動を開始。被害の大きかった長野県千曲川周辺の避難所などで、緊急災害対応アライアンス「SEMA」を通じて提供された下着や防寒着など約 5600 着を配布。また、停電した医療機関に対しランタンや発電機、ボランティアセンターに高圧洗浄機などの資機材を貸し出し、避難者の生活や生活復旧を後押しした。同じく被害の大きかった福島県相馬市や宮城県丸森町に給水袋 850 枚を届けた。



長野県内避難所↑



### ●2-1-3 新型コロナウイルス感染症拡大防止支援事業

2019 年末から中国湖北省武漢市を中心に感染が拡大した新型コロナウイルス (COVID-19) に対応し、空飛ぶ捜索医療団 ARROWS (下記 2-2-1 参照) は、2020 年 1 月 27 日から医療従事者用の防護服や医療用マスクなどの物資の提供を開始。これらはアジアパシフィックアライアンス (A-PAD) が 2016 年より佐賀空港倉庫に備蓄していた感染症対策物資で、ARROWS スタッフが佐賀空港から春秋航空旅客機にて上海に手持ち輸送した後、国際医療福祉機構 (IHWI) を通じて、武漢や上海の病院に届けた。



防護服などを持参し上海にて↑



パートナー団体と共に引渡しの様子↑

## 2-2 プラットフォーム構築事業

### ●2-2-1 空飛ぶ捜索医療団「ARROWS」事業

2018年度に立ち上げた「空飛ぶ医師団」は、2019年12月に「空飛ぶ捜索医療団／Airborne Rescue and Relief Operation with Search (ARROWS)」に名称を変更した。



医療を軸とした災害緊急支援プロジェクトで、災害専用機

(コマンダーJA8600)やヘリコプターなどを活用し、姉妹団体のピースウィンズ・ジャパン(PWJ)やCivic Forceをはじめ佐賀県、佐賀大学など多くの組織の力を集結して緊急対応を行う。また、コマンダー機の拠点空港を、佐賀空港に加えて大阪府の八尾空港の2拠点とした。航空機販売及び整備会社である株式会社エアロラボインターナショナルとの協力で、コマンダー機の整備・運航を委託し、平常時の業務を効率化し、より安全で迅速な災害時の緊急出動体制を整えた。

### ●2-2-2 行政との連携

- ・佐賀市：佐賀市総合防災訓練への参加

2020年2月、佐賀市久保田町の小中一貫校思斉館校で開催された令和元年度佐賀市総合防災訓練に出展した。A-PAD ジャパンの出展ブースでは、活動紹介のパネル展示、防災クイズ&ガラポン抽選会を実施。パネル展示では昨年の佐賀豪雨、台風19号の支援活動、新型コロナウイルスの支援活動などを紹介した。地域住民他小中学生も授業の一環として参加したため、防災クイズは大人や学年層に合わせたものを用意した。抽選会では、景品として、ランタンやLEDライト付きのホイッスルといった防災グッズやA-PAD ジャパンオリジナルグッズを当選者に渡した。参加者数は小学生(436名)、中学1年生(84名)、中学2年生(67名)、校区内から住民770名(校区住民約7000名の約1割)となり、防災意識の向上と佐賀市との連携をさらに深める機会となった。



佐賀市総合防災訓練での出展ブースの様子↑

・佐賀県：令和元年九州北部豪雨にて災害対策本部会議出席

8月の九州北部豪雨をうけ、佐賀県から要請を受け県内のCSOを代表してSPFメンバーとして佐賀県災害対策本部の会議に出席。危機管理センターでは山口知事のもと、災害の大きかった武雄市、大町町の現場からのオンラインによる報告、消防防災課や健康福祉対策部などの県庁担当部署、他気象庁、陸上自衛隊、警察、内閣府防災課審議官から次々と現状報告や情報提供が行われた。ここで得られた最新の災害や被災の情報を参考にしながら、より需要の高い効果的な支援活動を展開した。



佐賀県庁内防災センターにて災害対策本部会議の様子↑

●2-2-3 企業やCSO等との連携：

・SEMAとのパートナーシップ

2017年8月に発足したSEMA（Social Emergency Management Alliance = 緊急災害対応アライアンス）との連携で、A-PAD ジャパンも加盟団体と共に緊急対応を行った。特に2019年8月の令和元年九州北部豪雨では企業7社より4カ所の行政や避難所にブルーシートやウレタンマットなどを、ボランティアセンターに飲料水などの支援物資を届けることができた。



・佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）への参加

佐賀県と 2019 年 1 月に災害時の連携・協力に関する協定を結び活動を本格化した SPF にコアメンバーとして参加し、避難所支援や防災活動において積極的にかかわっている。令和元年九州北部豪雨時には定例の連絡会議への参加、その後は各分野に分かれたタスクチームに参加し、次の災害に備える地域の活動の企画を行っている。



●2-2-4 災害支援のための設備保管と物資備蓄

・佐賀県および佐賀市より物資や車両の保管用スペースを無償で提供を受け、活動の幅を広げるとともに、さらなる行政との連携を強めることができた。トレーラー等の日常点検、倉庫管理業務を継続的に実施した。主な倉庫と物資は以下の表のとおり。

| 場 所         | 提 供 | 物 資                                       |
|-------------|-----|---|
| 佐賀空港内倉庫     | 佐賀県 | 感染症対策物資、マスクなど                             |
| 佐賀競馬場駐車場    | 佐賀県 | アメリカントレーラー（4 台）※CF 所有<br>ヨーロッパントレーラー（6 台） |
| 久保田支所駐車場    | 佐賀市 | アメリカントレーラー（1 台）※CF 所有                     |
| 久保田支所車庫     | 佐賀市 | テント、洗剤等                                   |
| 久保田支所北庁舎    | 佐賀市 | 簡易トイレ、パーテーション、日用品等                        |
| 大和支所旧健康センター | 佐賀市 | オムツ類など                                    |

・備蓄品の無料譲渡会

2019 年 3 月、佐賀市内に備蓄していた食器用洗剤や、洗濯洗剤、漂白剤などを佐賀県内の社会福祉施設を対象に配布した。配布にあたっては事前に佐賀新聞にて告知し、また佐賀市久保田支所には告知協力をいただき、久保田支所倉庫にて譲渡会を実施して手渡しした。物資の有効活用として、また地域とのかかわりとして貢献することができた。

以上